

研究資源共有化システム ニュースレター

第11号
2016年
3月31日

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 研究資源共有化事業委員会
Inter-University Research Institute Corporation National Institutes for the Humanities The Committee of Resource Sharing Project
<http://www.nihu.jp/sougou/kyoyuka/system/index.html>

人間文化研究機構第2期における資源共有化事業について

人間文化研究機構 理事 榎原 雅治

人間文化研究機構では、平成20年に機構本部の企画・連携・広報室の下に人間文化研究資源共有化事業委員会を発足させ、研究資源共有化事業を推進してきた。この事業は、研究資源共有化システム(統合検索システム)、時空間解析システム(GT-Map/GT-Time)をベースに、機構6機関における蓄積されてきた研究資源、および共同研究・連携研究・地域研究の成果を、機構内外で共有化して利用できる情報システム、さらに人間文化研究に関わる機構外の学術諸機関の研究資源と連携した情報システムの構築をめざすものである。

第2期を終了するにあたって、今期において行った事業内容を以下に紹介する。

1. 研究資源共通化システムの構築

① nihuINT (nihu INTegrated Retrieval System)

研究資源共有化システムは平成17年より構築をすすめ、翌年に一般公開した。この段階では、機構を構成する5機関が保有する研究データベースを統合的に検索し活用する統合検索システム、時空間情報解析のためのGT-Map/GT-Time、および参加型データベースシステムであるnihuONEより構成されていた。平成21年、国立国語研究所が本機構に加わったため、翌年より同所のデータベースもnihuINTに参加した。

平成28年2月段階で機構内の138件のデータベース(レコード数約530万件)が検索対象となっている。

第2期の3年目にあたる平成24年にnihuINTのシステム更新を行い、検索の利便性の向上のため、検索結果の表示方式や、異体字を同定した検索方法、入力方法の簡略化などの機能を付加した。

統合検索の対象となるデータベースが拡大する一方で、検索の動機づけとなる窓口も必要であることが指摘されるようになった。その窓口の一つとして、共有化事業委員会、および国文学研究資料館・国立国語研究所において作成された人名情報をデータベース化した人名一覧を平成26年7月に公開した。

② nDP (nihu Data Provider)

平成24年、nihuONEに代えて、本機構の「地域研究推進事業(地域研究拠点)」のデータベースなど、人間文化にかかわる研究成果を簡易に公開するためのシステムとしてnDPを



nihuINTのサブシステムとして構築した。このシステムには、本機構内各機関の研究成果、および連携研究であるイスラーム地域研究、現代中国地域研究、現代インド地域研究の研究成果の一部が格納されており、nihuINTにて検索することができるようになっている。

2. 人間文化研究機構外の機関との連携

平成22年8月、国立国会図書館PORTAと統合検索システムとの連携検索を開始し、同24年1月にはPORTAを引き継ぐ国立国会図書館サーチ(NDL Search)との連携検索を開始した。これによって、nihuINTから「国立国会図書館デジタルアーカイブ」など、国立国会図書館の13件のデータベースを検索でき、一方、NDL SearchからもnihuINT全体を検索対象とできるようになった。

また、平成22年4月、京都大学地域研究統合情報センター(CIAS)の「地域研究資源共有化データベース」との連携を開始した。これによって、同データベースから、nihuINTを通じて、国立民族学博物館・総合地球環境学研究所の17件のデータベースを検索できるようになった。当初はCIASからの片方向連携だったが、同27年に今後の双方向連携を実現した。

3. 時空間システム

時空間システムでは、平成22年9月に開始したフリーソフトウェアの時空間解析ツール(GT-Map/Time)の公開を継続して実施した。現在は、セマンティックWeb技術を応用するための改

良を進めている。特に、後述する「資源共有化プロトタイプシステム」で中心となるRDF (Resource Description Framework) データを時空間解析ツールに取り込むための準備作業を進めている。また利用促進のために、ニューズレター9号に操作マニュアルを掲載し、英文マニュアルの作成も行った。

4. 国際リンク集の公開

日本における人間文化研究の国際的発信のため、日本文化研究を統合する国際リンク集を構築し、平成26年3月に公開した。平成27年3月に小規模リニューアルを加え、特に英語によるリソース提供を行っている機関と、日本における主要な資料保存機関を中心にした整備を行った。また、第3期に向け、複数の認証された人間がデータを拡充し、メンテナンスできるしくみとしてCMSのシステムを平成27年度に導入した。

5. 資源共有化プロトタイプシステム

第3期に向けた新たなシステム構築に向けて、特に「機関ではなくデータでつながる・つなげる」システムの実験的な構築を平成26年度より開始した。6機関のうち、3機関のデータベースの一部を対象として、ひとつのデータベースの項目から他のデータベースの項目へのリンクを作成し、芋づる式に情報を探

すことができるしくみの実験を行った。また、このデータそのものを他機関からもアクセスできるような仕組みとして機能しうるかの実験を開始した。このプロトタイプシステムは、第3期においてより拡充を行い、基幹的なデータベースとして位置づける。

6. 学界連携・成果公開

研究資源共有化システムおよび学界における人間文化研究を中心とした共有化事業展開の意見交換の場として2009年より共有化研究会を開催している。学界連携の推進のため、国際会議・国内研究会を主催した。6年間に行った研究会については、このニューズレターの5ページに一覧表を示した。

またニューズレター1～11号を発行し、事業の進捗状況を適宜、広報した。

7. データ保全への取り組み

平成23年3月、東日本大震災が発生し、東北地方の歴史資料保存機関も大きな被害を受けた。この事態をうけ、本機構各機関および本部における機能・サービスを展開する上で不可欠なデジタルコンテンツを地震・火災などの災害によって喪失する危険を防ぐ体制を整える必要性を認識し、バックアップデータを機関外に保持できる体制を整えた。

研究資源共有化の第3のステップ 未来のための人間文化資源

人間文化研究機構 後藤 真

人間文化研究機構は、平成28年度より第3期中期目標期間に入る。また、あわせて、資源共有化の情報システムは、同28年度末にリプレイスの時期をむかえている。リプレイスにあわせ、機能全体の見直し、および現在の情報資料が求められている要請に合わせたしくみの構築について検討を進めている。また、資源共有化事業は、平成28年度に設置される「総合情報発信センター(以下、発信センター)」の行う事業の一環となり、複数の情報資源と統合的に扱うものとなる。本稿では、これら平成28年度の動きについて、その計画と概観を述べる。

発信センターと資源共有化事業

人間文化研究機構は、第3期中期計画の研究を機動的に

進めるために、「総合人間文化研究推進センター」と「総合情報発信センター」の2センターを新たに設置し、研究を進めることとなっている。そのうち資源共有化事業は総合情報発信センターの事業の一つに組み入れられることとなる(図1)。

発信センターの中では、情報部門・広報部門が整備されるが、そのうち情報部門において、人の情報である研究者情報・研究成果の情報であるリポジトリ・そして資源情報である資源共有化のシステムを運用する。この三つの研究を一体的に運用することで、人間文化研究機構全体の資源を総合的に発信できるものとなる(これ以外に、国際リンク集の事業なども継続して行う予定である)。そのために現在の資源共有化システムを新たな形へと変更することとなる。

現在の資源共有化システムの克服すべき課題

現在の資源共有化システムは、当初のシステムを2008年に稼働開始し、2011年に最初のリプレイスをむかえた。その後5年を経過し、新たなシステムのリプレイスを求められている。第2期システムでは、時空間情報などの充実とともに、国立国会図書館・京都大学地域研究統合情報センターとの連携を可能にするなどの成果をあげている。それらの成果を踏まえた次期システムの課題については、以下のようなものがあげられる。

応答速度の向上

現在のシステムでは、検索キーワードを入れ、その結果が表示されるまでに、時間が相応にかかっている。これは、各6機関

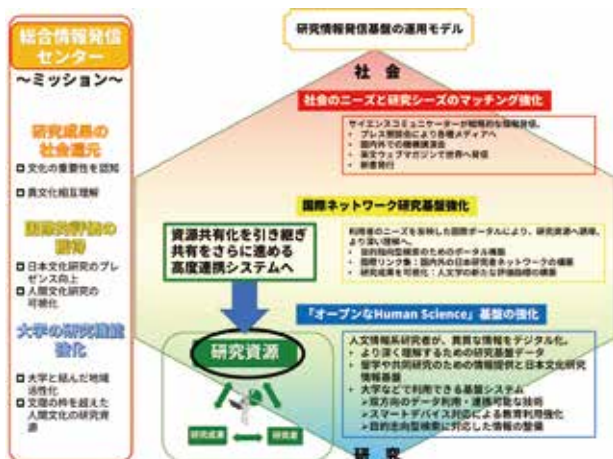


図1 情報発信センター内の資源共有化

+連携諸機関のデータベースに問い合わせをおこなっているためである。結果的にタイムラグが大きく、ユーザにストレスを与えることが多くあった。この応答速度の改善を行うことで、ユーザのストレスを軽減させ、多くの検索を可能とすることを目指している。そのためには、システム全体のスリム化も含めて検討を行う必要がある。

検索内容の明確化

現在のシステムのデフォルトでは、検索結果の最初に出てくる画面が、「どのデータベースに何件のデータがあるか」の一覧である。これは、データベースの内容を知悉している研究者にとっては都合がよいものだが、データベースの中に何があるかを一目で把握することが困難であり、「検索結果の中に何があるのか」が見通せない部分がある。また、研究者であっても、統合的なデータベースを頼りにするのは、本来の専門の部分ではなく、その隣接分野である場合が多い(後述)。結果的に、データベースを一覧として表示するよりは、データそのものを一覧で並べるほうがよりユーザフレンドリーではないかと考えており、そのための工夫が必要である。現在のnihuINTでも、オプションの設定によってこのような表示方法は可能であるが、すぐにわかる位置にない。このようにユーザインターフェースそのものの見直しも検討材料である。

しかし、課題として、最初からデータを表示した場合に、「多数ヒットした場合に何を結果上位にもってくるか」の判断が困難であるということがある。nihuINTのデフォルトは6機関の決まった順番(歴博・国文研・国語研・日文研・地球研・民博)となってしまうため、機関ごとに有利不利の差が出てしまう。これを回避する工夫が求められる。

スマートデバイスの採用と「目的志向型検索」の可能性

nihuINTは、いわゆるデータベースのデータベースであるため、ちょっと気になった際にさっとあたりをつける検索なども、本来はニーズの高い検索であると考えられる。また、現在のデジタルデバイスの変遷を考えるならば、いわゆるPCのみならず、スマートフォンや、タブレットで簡易に検索するためのスマートデバイス対応も重要な求められる機能である。

また、上述したように、nihuINTは研究者であっても、本来の専門より、その隣接領域での検索ニーズがより高いのではないかと考えられる。あわせて、nihuINTのデータベース数はすでに160を超えており、すべてのデータベースを対象とした検索だけが、ニーズを満たすものになってはいないのではないかの懸念がある。そのため、たとえば分野をより簡単に絞る方法、もしくは、Web上でコンテンツが見られるもの、近くの図書館や博物館でコンテンツが見られるもの、それぞれの機関に来てはじめて見られるデジタル化されていない所蔵品など、ユーザが求めるニーズの深さに合わせ、データベースの数を絞るなどの方法が検討されている。

上記の課題とその解決方法は、すべて次のシステムで達成されるかは不透明な部分はある。しかし、現在、nihuINTを運用する資源共有化のメンバーの中では、共有されておりいずれは克服されなければならない課題であると考えている。

Linked Dataによる「つながるしくみ」と人間文化研究資源へのアクセス確保

ニューズレター第10号で、詳細を述べたように、データベースを単につなげるだけではなく、資料と資料を機構内/外でつなぎ、より研究者が広範で、かつ隣接などの分野の情報もより容易に得られる仕組みとして、Linked DataとRDFによるしくみの採用を行う。これは、次期システムの中で、中心的なデータベースとして位置づけられる。複数のデータベースを簡単に結びつけると同時に、一つ一つの目録の詳細情報にURLを付したデータとして、よりWebの浅い部分に置く。かつ、資料に機構内外へのリンクをはることで、今までのような大掛かりではない、データベースの連携を可能とすることを目指している。また、資料情報にURLをつけることで、論文等での参照をより容易にするとともに、リポジトリから資料へ、資料からリポジトリへといった、研究成果と資源の結びつけを行うことが可能となる。(図2・図3)

このLinked Dataのしくみと、先述のnihuINTの改修を組み合わせる形で使うことで、新たなデータベースとする。これまでに、データベースの共有を一つの成果としてあげてきた。次は共有をさらに推し進め、機構と大学や他の研究所との有機的な連携へと発展させていく必要があるであろう。

資源共有化から高度連携へ 資源共有化の未来

そのため、このnihuINTとプロトタイプを結びつけたものを「高度連携システム」と新たに名付けた。人間文化研究機構の資源を一体として、かつ、単純に機関の連携ではなく、機構の資源そのものと、他機関の資源や成果そのものとを連携させる。また、機構の資源を他機関で応用的に用いる連携も可能とする。この高度連携システムの構想を実現させることで、発信センターは人間文化資源そのもののネットワークを構築するためのハブとなるであろう。



図2 資源共有化プロトタイプの関係図



図3 プロトタイプの画像

第11回資源共有化研究会の実施

人間文化研究機構 理事 榎原 雅治

2月6日、第11回資源共有化研究会「人間文化研究機構のもつ画像データ共有化の前進に向けて」が京都市のガーデンシティ京都で開催された。

機構内には、絵画や写真などの画像情報を中心としたデータベースが多数ある。nihuINTにおいて「画像・映像・音響」に分類されたもの以外にも、たとえば「所蔵資料目録」の中に「怪異・妖怪絵姿」「近世風俗図」などの画像データベースがある。

これらを横断検索することはすでに可能であるが、検索するためには、現状では資料名や描かれた像主などの固有名詞を入力することが必要で、描かれた図柄のさまざまな属性から検索することはできない。

画像に、「子供」「犬」「病気」のような普通名詞からなるキーワードをメタデータとして埋め込むことによって、共通性のある画像、類似した画像を収集する「絵引きシステム」を考えるとできれば、共有化システムは、研究者にとっても一般市民にとっても、格段に使いやすくなると考えられる。

人間文化研究機構は、本年度で第2期を終了し、第3期においては、機構内各機関における研究成果を、より見やすい形で社会に提供することが強く求められている。画像データは人間文化にかかわる情報の中でも、専門外の研究者や文化に関心のある一般市民にもなじみやすい情報資源である。これらをより活用していく方法を探るために、今回の研究会を企画した。

当日の報告は下記のとおりである。

大型プロジェクトの目指す検索機能の高度化の取り組み

国文学研究資料館古典籍共同研究
事業センター副センター長 山本和明

近代日本の身装データベースの画像について

国立民族学博物館
先端人類科学研究部准教授 丸川雄三

絵入り百科事典データベースの構築-『訓蒙図彙』を核として

国際日本文化研究センター特任助教
石上阿希

洛中洛外図屏風『歴博甲本』人物データベースについて

国立歴史民俗博物館歴史研究系教授
小島道裕

肖像画模本／歴史絵引データベースの課題

東京大学史料編纂所古代史料部門助教
藤原重雄

画像内容に基づく検索技術に対する期待と現実

国立情報学研究所コンテンツ科学研究系
准教授 北本朝展

山本報告から小島報告までは、各機関で実施されている取り組みが紹介された。

山本報告では、「歴史的典籍に関する大型プロジェクト」における画像データ検索についての紹介があった。1点ごとの史料にDOIを付与することによって館蔵史料のオープンデータ化をはかるとともに、画像中の文章に見える固有名詞をタグ付けする方針であることが報告された。

丸川報告では、明治期の新聞や雑誌から抽出した身装画

像のデータベースに多層性のある検索ワードやコメントを付与するとともに、コメントに対してWeb上で閲覧者がコメントを加えていくソーシャルタギングの仕組みを構築中であることが報告された。

石上報告では、図解百科事典データベースの構築を目指す試みの一環として、現在取り組んでいる江戸初期の絵入り百科事典、『訓蒙図彙』のデータベース化について報告され、他のデータベースとどのようにつなげていくかという課題が提示された。

小島報告では、「洛中洛外図屏風『歴博甲本』」に描かれた人物画像を検索するために付与されたタグの構造や、現在開発中の「歴博乙本」「近世職人画像」の人物画像データベースについて紹介された。

藤原報告では、東大史料編纂所で取り組まれてきた画像史料に関するデータベースの紹介とともに、画像を言語化するにあたっての問題点が指摘された。

北本報告では、情報学の立場から、自動的にタグ付けを行うことの難しさや、横断検索は研究成果であるのか、それとも目的に辿り着くためのツールであるのかという、基本的な問題が提起された。

討論は、国立歴史民俗博物館の後藤真准教授の司会のもとで、だれが、どのレベルのタグを付けるかという問題を中心に行われた。大きな議論となったのは、個々の画像には、その画像が描かれた史料のもつ文脈があり、その文脈から切り離れた形で言語化されたタグを付与していくことに関する考え方の相違だった。

そうしたタグをもつ情報を、各種のデータベース間で横断検索することの意味に懐疑的な意見がある一方で、検索システムは、検索者がそれぞれ関心の解決に辿り着くための窓口であり、得られた結果から何をどう考えるかは検索者の果たすべき領域であること、窓口はたくさんあった方がよいといった意見も出された。

だれを対象とした共有化なのか、また必ずしも高度な検索リテラシーをもつ検索者を対象としているわけではない「社会への公開」という仕組みの問題点が浮かび上がった。

このほか、タグを付与された画像の、その絵画史料全体の中での位置情報をどう示すか、あるべき画像共有の形はどのようなものであるかなどの問いも提起された。画像共有という試みへの期待と疑問、難問の両者が示された意義深い研究会となった。



第2期中期目標期間(平成22年4月～平成28年3月) 人間文化研究情報資源共有化事業 実績一覧

■人間文化研究情報資源共有化研究会

人間文化研究機構では、機構を構成する機関のデータベースの横断検索の発展のみならず、人間文化研究分野及び関連領域における学会全体での情報資源共有化の推進を提案してきました。

このことから、学会での人間文化に関わる研究情報資源共有化の推進について、学会の皆様と意見交換し、さらに連携を進展させる機会を得るために、研究会を計11回(※)開催しました。(※第1～3回は第1期に開催)

第4回

テーマ 「人文系諸分野における研究情報資源の公開と連携」

日時 平成22年9月10日(金) 13時～17時

場所 国立国語研究所 講堂

第5回

テーマ 「人間文化研究情報資源と知識ベース」

日時 平成23年1月28日(金) 13時～17時

場所 国立民族学博物館 第5セミナー室(2階)

第6回

テーマ 「人間文化研究資源の保全と資源共有化の課題」

日時 平成23年12月16日(金) 12時45分～17時30分

場所 人間文化研究機構立川事務所(国文学研究資料館 5階)

第7回

テーマ 「人文科学研究資源の共有と利活用」

日時 平成24年10月12日(金) 14時～17時50分

場所 国文学研究資料館 2階 大会議室

第8回

テーマ 「人間文化研究資源の調査と情報化」

日時 平成25年12月12日(木) 9時30分～17時50分

場所 京都大学 百周年計台記念館・百周年記念ホール

第9回

テーマ 「『地域の知』の情報学—時間・空間・語彙に注目した地域情報学の展開—」

日時 平成26年7月19日(土) 13時30分～18時

場所 国立情報学研究所(学術総合センター) 12階 1208会議室

第10回

テーマ 「人文科学における災害情報の共有化」

日時 平成27年3月28日(土) 13時20分～17時

場所 京都リサーチパーク 西地区4号館2F

第11回

テーマ 「人間文化研究機構のもつ画像データ共有化の前進に向けて」

日時 平成28年2月6日(土) 13時00分～17時40分

場所 TKP ガーデンシティ京都 「山吹」

■人間文化研究情報資源共有化研究会報告集

人間文化研究のための情報資源の共有化の推進に資するため、前述人間文化研究情報資源共有化研究会における報告と討論をまとめた報告集を計6冊(※)発行しました。

(※報告集1は第1期に発行)

人間文化研究情報資源共有化研究会報告集2

平成23年3月26日発行(ISBN 978-4-903211-14-5)

(人間文化研究情報資源共有化研究会第4回・第5回の報告を収録)

人間文化研究情報資源共有化研究会報告集3

平成24年3月29日発行(ISBN 978-4-903211-16-9)

(人間文化研究情報資源共有化研究会第6回の報告を収録)

人間文化研究情報資源共有化研究会報告集4

平成25年3月29日発行(ISBN 978-4-903211-17-6)

(人間文化研究情報資源共有化研究会第7回の報告を収録)

人間文化研究情報資源共有化研究会報告集5

平成26年3月29日発行(ISBN 978-4-903211-18-3)

(人間文化研究情報資源共有化研究会第8回の報告を収録)

人間文化研究情報資源共有化研究会報告集6

平成28年3月18日発行(ISBN 978-4-903211-19-0)

(人間文化研究情報資源共有化研究会第9回・第10回の報告を収録)

■人間文化研究情報資源共有化事業委員会

人間文化研究機構企画・連携・広報室の専門委員会として、人間文化研究機構研究資源共有化事業委員会を設置し、機構の各大学共同利用機関(以下「機関」という。)が保有する研究資源を有機的に結びつける情報システムを構築・運用し、あわせて機構外の諸機関との人間文化研究に関わる情報資源の利用の連携を行いました。人間文化研究機構研究教育職員のほか、機構外の関連研究機関職員が委員として活動し、本委員会を第2期中期目標期間において、計40回開催しました。(平成22～26年度各7回・平成27年度5回)

また、平成24年9月に委員会に人間文化研究情報資源共有化連携企画部会を設置し、学術文化機関関係者を専門委員に招き、研究資源情報の社会・学界での共有化の推進について検討を進めました。

■研究資源共有化システム ニュースレター

人間文化研究の発展のための情報資源を提供する研究資源共有化システムの活動を、学界・社会の皆様にお知らせするために、ニュースレターを発行しました。

- 第1号 平成22年10月25日発行
- 第2号 平成23年 3月15日発行
- 第3号 平成23年10月31日発行
- 第4号 平成24年 3月23日発行
- 第5号 平成24年 6月29日発行
- 第6号 平成25年 3月25日発行
- 第7号 平成25年11月 1日発行

- 第8号 平成26年 3月31日発行
- 第9号 平成26年10月31日発行
- 第10号 平成27年 3月27日発行
- 第11号 平成28年 3月31日発行

■nihuINT (<http://int.nihu.jp/>) 収録データ一覧

人文科学に関するさまざまな研究データベースを、一元的に、網羅的に、かつ迅速に活できる環境を創出することを目的として、研究資源共有化システムを構築しました。
(nihuINT 計165データベース：2016年3月)

| 機関名 | データベース一覧 |
|-------------------|--|
| 国立歴史民俗博物館 | 「文化財材料(色材)知識」「中世地方都市(文献)」「中世地方都市(都市)」「中世制札(文献)」「中世制札(制札)」「土偶」「江戸商人・職人」「自由民権運動研究文献目録」「詞文・弥生集落遺跡」「城館城下発掘(文献)」「城館城下発掘(遺跡)」「兼頼卿記」「館蔵『懐渥諸屏』」「館蔵武器武具(文献史料)」「館蔵武器武具(実物資料)」「館蔵中世古文書」「館蔵縄文時代遺物」「館蔵近世・近代古文書」「館蔵紀州徳川家伝来楽器」「館蔵銅鏡」「館蔵野村正治郎衣裳コレクション」「館蔵染色用型紙」「館蔵資料」「館蔵装身具」「館蔵高松宮家伝来禁裏本」「近世楽業遺跡」「近世楽業関係主要文献目録」「古代・中世都市生活史」「民俗語彙」「棟札」「日本民俗学文献目録」「日本荘園」「荘園関係文献目録」「歴史図書目録」「東国板碑(文献)」「東国板碑(板碑)」「東国板碑(遺跡等)」「陶磁器出土遺跡(文献)」「陶磁器出土遺跡(遺跡)」「弥生石器遺跡(遺跡)」「弥生石器遺跡(図面)」「俗信_動植物編」「俗信_身体・病羅」 |
| 国文学研究資料館 | 「二十一代集」「アーカイブズ学文献」「吾妻鏡」「繪入源氏物語」「歴史物語」「館蔵神社明細帳」「近代文献情報(近代書誌・近代画像)」「古筆切所収情報」「古事類苑」「国文学論文目録」「古典学統合百科(地下家伝・芳賀人名辞典)」「連歌・演説・雅楽」「近代文献情報(明治期出版広告)」「日本実業史博物館コレクション」「日本古典籍総合目録」「コーニツキー版 歌州所在日本古書総合目録」「歴史人物画像」「新奈良絵本」「史料情報共有化」「史料所在情報・検索」システム」「収録歴史アーカイブズ」「蔵書印」「図書・雑誌所蔵目録」 |
| 国立国語研究所 | 「米国会図書館本源氏物語翻字本文データベース」「『方言文法全国地図』地図画像」「日本語研究・日本語教育文献」「『日本語地図』地図画像」「ことばに関する新聞記事見出し」「蔵書目録(図書)」「蔵書目録(雑誌)」 |
| 国際日本文化研究センター | 「図録 米欧回覧実記」「絵巻物」「俳諧」「平安人物志」「平安人物志短冊帖」「平安京都名所図会」「Japan Review」「怪異・妖怪伝承」「怪異・妖怪絵巻」「季語検索」「近世風俗図会」「近世時人伝(正・続)」「貴重書」「考古学GIS」「都年中行事画帖」「米国会図書館所蔵奈良絵本」「日研フォーラム報告書」「日本語学研究文献」「日本関係図文書目録」「日本研究」「日本研究機関」「錦絵観音堂絵記の世界」「於竹大日如来縁起絵巻」「連歌」「西洋医学史古典文献(新聞文庫)」「宗田文庫図版資料」「所蔵地図」「ちりめん本」「米国会図書館所蔵浮世絵」「和歌」「在外日本美術」 |
| 国立民族学博物館 | 「音響資料目録」「ジョージ・ブラウン・コレクション(英語版)」「ジョージ・ブラウン・コレクション」「日本昔話資料: 稲田浩二コレクション」「みんぱくりボジトリ」「カウフマン・アフリカ古地図コレクション」「図書目録」「雑誌目録」「衣服・アクセサリー」「身装文献」「標本資料記事索引」「標本資料目録」「標本資料詳細情報」「映像資料目録」「中西コレクション―世界の文字資料―」「音楽・芸能の映像」「音響資料曲目」「梅村忠夫著作目録(1934～)」「ビデオテク」 |
| 地域研究拠点 | 「現代南アジア・イスラーム復興思想: マウドゥーディ著作目録と解題」「中東現代文学邦訳・研究文献」「中国環境問題研究」「日中戦争期中国研究文献」「東洋文庫・中華教育界目録」「西岡『百学連環』」「オスマン民法典研究関係資料データベース」「インドの統計地図集」 |
| 連携機関(138データベース) | |
| 京都大学 地域研究統合情報センター | 「NEARDB:『北京特別市公署市政公報』目次検索データベース(1938～1944年)」「英国議会資料地図データベース」「NEARDB:スタンフォード大学フーヴァー研究所中国関係アーカイブ件名索引データベース」「三印法典データベース」「マレーシア映画データベース」「満洲国ポスターデータベース」「NEARDB:モンゴル(人民共和) 国科学アカデミー刊行人文社会科学系学術定期刊行物記事索引データベース」「NEARDB:20世紀年表データベース(1918～1952年)」「ポスト社会主義諸国選挙・政党データベース」「戦前期東アジア絵はがきデータベース」「『カラム』雑誌記事データベース」「NEARDB:上海租界工部局警務処文書件名索引データベース(1894年～1949年)」「タミル映画データベース」「タイ映画データベース」「トルキスタン集成データベース」「Waktuデータベース」 |
| 国立国会図書館 | 「カレントアウェアネス」「日本法令索引(明治前期編)」「NDL-OPAC」「総合目録ネットワークシステム(ゆにかわっと)」「国立国会図書館デジタルアーカイブ(デジタル化資料)」「国立国会図書館デジタルアーカイブ(インターネット資料)」「レファレンス協同データベース」「リサーチ・ナビ(調べ方案内)」「点字図書・録音図書全国総合目録」「電子展示会」「NDL雑誌記事索引」 |
| 連携機関(27データベース) | |

CONTENTS

人間文化研究機構第2期における資源共有化事業について 榎原雅治 1

研究資源共有化の第3のステップ 未来のための人間文化資源 後藤真 2

第11回資源共有化研究会の実施 榎原雅治 4

第2期中期目標期間人間文化研究情報資源共有化事業 実績一覧 5

研究資源共有化システム ニュースレター 第11号

発行日/2016(平成28)年3月31日 発行・編集/大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 研究資源共有化事業委員会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル2階 TEL/03-6402-9200(代表)